

第2期文化施設部会（第2回）

資料4

文化審議会文化経済部会について

文化経済部会の構造

文化経済部会

文化芸術の創造的循環の議論及びその普及方法の検討

建築文化WG

※令和6年度～

建築文化の振興に係る普及啓発・人材育成・制度的枠組み等

座長：後藤 治 委員 座長代理：金野 幸雄 委員

アート振興WG

※令和3年度、令和5年度～令和6年度

我が国のアート振興における美術館の役割・位置づけ等

座長：片岡 真実 委員 座長代理：保坂 健二郎 委員

基盤・制度WG

※令和3年度～令和5年度

美術品の公的な鑑定評価制度、デジタル、税制

座長：森信 茂樹 委員 座長代理：小池 藍 委員

カウンシル機能検討WG

※令和4年度～令和5年度

ナショナルアーツカウンシル機能の確立・強化に向けた検討

座長：石田 麻子 委員 座長代理：後藤 治 委員

グローバル展開WG

※令和4年度

文化芸術のグローバル展開及び価値づけ

座長：矢ヶ崎 紀子 委員 座長代理：中村伊知哉 委員

文化審議会 第5期文化経済部会委員名簿

(令和7年4月1日現在)

(委員)

(敬称略・五十音順)

- 島谷 弘幸 独立行政法人国立文化財機構理事長／三の丸尚蔵館館長
田中 正之 独立行政法人国立美術館理事／国立西洋美術館長
◎ 吉見 俊哉 國學院大学観光まちづくり学部教授

◎：部会長
○：部会長代理

(臨時委員)

- 池上 健 明治大学専門職大学院会計専門職研究科専任教授
生駒 芳子 ファッション・ジャーナリスト／一般社団法人日本エシカル推進協議会長
石田 麻子 昭和音楽大学教授
大橋 弘 東京大学教授
○ 岡室 美奈子 早稲田大学教授
桶田 大介 弁護士（シティライツ法律事務所）
片岡 真実 森美術館長
金野 幸雄 一般社団法人創造遺産機構理事
倉森 京子 株式会社NHKエデュケーショナル チーフ・プロデューサー
小池 藍 THE CREATIVE FUND, LLP代表パートナー／日本ベンチャーキャピタル協会理事
後藤 治 学校法人工学院大学総合研究所教授
佐藤 主光 一橋大学経済学研究科教授
飾森 亜樹子 株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ経営企画部ブランド戦略グループ部長
チーフ・コーポレートブランディング・オフィサー
竹下 智 株式会社野村資本市場研究所主任研究員
中島 さち子 株式会社steAm代表取締役
堀内 保潔 一般社団法人日本経済団体連合会産業政策本部長
山内 真理 公認会計士山内真理事務所／株式会社THNKアドバイザー代表

文化審議会 第5期文化経済部会委員名簿 (WG) (令和7年4月1日現在)

(敬称略・五十音順)

【建築文化WG】

(委員)

吉見 俊哉 國學院大学観光まちづくり学部教授

◎ : 座長

○ : 座長代理

(臨時委員)

- 金野 幸雄 一般社団法人創造遺産機構理事
- ◎ 後藤 治 学校法人工学院大学総合研究所教授

(専門委員)

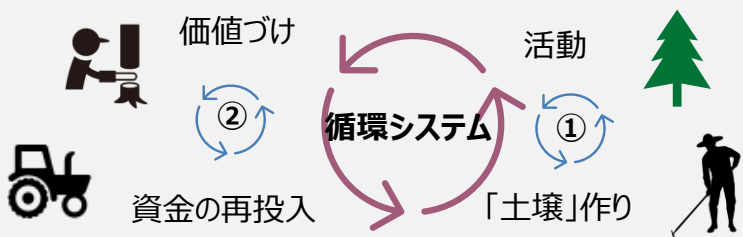
黒木 正郎 一般社団法人東京建築士会副会長 / 日本郵政株式会社首席建築家
小崎 博子 株式会社ジェイアール東日本企画ソーシャルビジネス・地域創成本部長代理
伊達 美和子 森トラスト株式会社代表取締役社長
内藤 廣 建築家 / 東京大学名誉教授
永山 祐子 建築家 / 有限会社永山祐子建築設計代表取締役
林 玲子 国立社会保障・人口問題研究所長

文化と経済の好循環を実現する文化芸術の「創造的循環」概要（第1期文化経済部会報告書、令和4年3月）

文化と経済の好循環

二つの「創造的循環」によって、資金が確保されるとともに文化芸術活動を促進し、さらに再投入の資金を生み出す「文化と経済の好循環」を実現する。

文化芸術の循環システムの構築 自律的で持続可能な経営



第1の「創造的循環」

文化芸術活動（「樹木」）を生み出す「土壌」を豊かにする循環

- (1) 創造的人材の持続的な育成
- (2) 「土壌」としての地域、場所
- (4) ファンドレイジングと税制措置
- (5) 文化芸術DXの推進
- (6) 文化芸術活動と担い手に関する公的統計・データ整備とアーカイブ

第2の「創造的循環」

文化芸術活動（「樹木」）を「保育」し、価値を高めて行く循環

- (3) マーケティング、ブランディング、プロモーション
- (7) グローバル市場への積極的な関与

創造的循環達成のための「7つの渦」

具体的なアクションプラン案（報告書p.18～）

【文化芸術循環システムの構築】（基盤的施策）

- ① 文化芸術全般を振興する**カウシル機能**（伴走型支援機能）の確立・強化の検討
- ② 文化芸術/ソフトパワー・プロモーション強化に向けた**関係機関の連携強化**

- (1) ① ワザの学修プログラム、②アーティスト等の就労環境の改善
③プロデュース人材の育成

- (2) ①地域芸術祭等のエコシステムの検証、②歴史的建造物等を地域で持続的に産業として育成する仕組みづくり ③中間支援組織等の形成支援、④海外富裕層の誘致

- (3) ①発信強化、②グローバル（デジタル）マーケティング、③民間活動支援、④海外富裕層の誘致、⑤世界誘客の場づくり、⑥鑑賞者教育

- (4) ①文化芸術への寄附促進、②寄附マッチング、③コレクターと美術館の関係強化、④動画制作のインセンティブ

- (5) ①文化ビジネスのグローバル化推進、②新たなテクノロジーへの対応
③ブロックチェーン等を活用した美術品の来歴管理

- (6) ①文化芸術関係統計データの整備、②国内アーカイブの連携
③ナショナルコレクションの形成、④公的鑑定評価制度の創設

- (7) ①トップアーティストの育成、②文化ビジネスのグローバル展開
③国立館のパートナーシップ強化、④東アジアワイドでのプロモーション強化

「文化芸術活動の創造的循環の実現に向けて」概要（第4期文化経済部会報告書、令和7年3月）

趣旨

○文化と経済の好循環に資する事項の検討のために、第2期から議論を続けている「文化芸術団体に資金が流れる方法」、「場の活性化」、「人材育成」の3つの論点のうち、第4期に中心的に議論した**資金面及び場の活性化に関する審議経過と来期への課題整理**を行うもの。

概要

1. 文化芸術に資金が循環する方法

- **資金調達手法の多様化・複合化**が必要。（国からの補助金以外に民間からの投資を呼び込む方法の模索）
※ブレンデッド・ファイナンス、インパクト投資、寄附、企業版ふるさと納税等が活性化する仕組み作りの検討
- **文化芸術分野に係るインパクト評価**の仕組みの検討。
- 既存の寄附税制制度の周知及び活用促進。
- 文化芸術団体の資金循環の基盤となる全国規模のプラットフォーム作りが必要。（カウンスル機能の設計とも連動）

2. 場の活性化

- 建築物に対する規制・補助金行政の見直し。（文化財をめぐる**既存の規制の緩和や弾力的な運用**の検討。）
- **都市部と地方部で異なる建築活用施策**。
- 地域特性に応じた税制と自治体の役割。
- 人の営みが伴う建築物・まち並みの継承・創造の社会実装に向けた検討。

各WG報告等のフォローアップ

カウンスル機能検討WG

第1期報告書の内容を踏まえ、引き続き、

- ① 我が国の文化芸術活動に関する**情報の網羅的な収集と標準化**
- ② 各文化芸術団体への**伴走型支援**にかかる組織体制の**機能強化**
- ③ 補助金の付与だけでなく、それらの団体の文化芸術活動が経済との好循環のなかで**長期的に持続可能となる仕組み**の構築を3本の矢として重点的に推進することが必要。

アート振興WG

- 今後のアートの振興の観点から、「**理想の美術館**」※の姿を検討。
※①明確なミッション、ビジョンバリューの定義付け（再定義）、②組織構造の設計（再設計）、③財務構造と収益モデルの設計（再設計）、④広報とパブリックリレーションズ、⑤教育と社会貢献、⑥環境意識（持続可能な運営）
- その実装に向けて、**3つの多様化・多角化**（対象ジャンルの多様化／組織の多様化・多角化／収入構造の多角化）に取り組むことが重要。

3. 来期に向けた課題の整理

- **国レベルでのカウンスル機能の実装**に向けた施策の推進
※第一の循環（土壌づくり）の観点からだけでなく、第二の循環（価値づけ：文化芸術のグローバル展開）の観点も加味する必要。
- グローバル展開のため、カウンスル機能に加え、関係省庁・機関の連携も含めた**体制・機能の強化**
- アーティスト・クリエイターだけでなく、そのマネジメントやプロデュース、ファンドレイジング、技術的支援等に関する**人的基盤の抜本強化（人材育成）**

第5期の検討テーマについて（案）

目指すべき世界観

- アーティスト・クリエイター等の文化芸術に携わる人々が、高い自律性を持って、創造力を最大限発揮し続けることが可能となる社会。
- **自律的・持続的な創造環境を支える仕組みとして、第一の循環（土壌作り）と第二の循環（価値付け）が生み出され続ける社会。**
- 文化芸術の価値が社会に理解されるよう、**主体的に社会に関わり、価値を発信し、資金を含めた支援を戦略的に獲得しようとする人々が評価される社会。**
- 公的支援の在り方も、上記の趣旨からの仕組みの構築や活動を促進する観点から考えられるべき。

施策の方向性

- 資金の循環・場の活性化・人材育成という3要素を中心として、文化芸術関係者の**自律的な取組を強化・促進する方向を目指す**ことが必要ではないか。
- 引き続き、関係者の**意識改革や民間主体の取組促進**等の施策を検討・推進するとともに、ナショナルレベルでの**アーツカウンシル機能（自律的・持続的な活動促進の手段として「人」、「資金」、「情報・ノウハウ」が集まるカウンシル機能）の構築・実装に向けた議論を本格化**していくことが考えられるのではないか。

〔想定される施策例（具体的検討事項の例）〕

- **関係者の意識改革の促進**
…シンポジウムの開催、突破事例・ノウハウの共有、意識改革を促す仕掛けの検討など
- **中間支援団体・機能の強化、民間事業者等の参画促進**
…自律的な循環の創出に向け、様々な立場からの多様な民間主体の参画を促す仕組みの検討など
- **助成金の分配・評価の在り方**
…活動の自律性・持続性を念頭においた分配・評価を行うために必要な事項（分配の仕組み、評価指標、人材、デジタルツール等）の検討
- **ナショナル・アーツカウンシル機能（自律性・持続性を促進するための支援機能）の構築・実装**
…必要な機能、それを支える組織・人材、リソース（資金・情報等）、外部機関・民間主体との連携、望ましい制度の在り方等の検討（第1期カウンシルWG報告書や自律的・持続的運営促進事業の取組状況等も踏まえながら検討。）
- **グローバルなレベルでの価値付けの強化策（外部機関との連携を含む）**

第5期の想定するゴール

上記の「世界観」の実現に向けた方向性の明確化、具体的に取り組むべき事項についてご議論をいただき、関連施策の推進に当たっての考え方の土台となるご提言をいただく。

〔検討スケジュール（イメージ）〕

- ・本日（第2回）含め、全5回程度開催。
- ・第2回～4回まで関係者ヒアリングを行いながら、論点に関する議論を深めていただき、最終回で提言をおまとめいただく。